

2026 第 54 届世界清晨盃暨吳文達紀念盃羽球錦標賽
台北モーニングカップ 2026 参加報告書

国際親善部 池田由紀子

2026 年 4 月 8 日（水）～12 日（日）まで台北体育館にて【2026 第 54 届世界清晨盃】が開催された。今年は吳俊彦氏が中華民国全民羽球發展協會の理事長に再び就任され、1 階のあちこちにお花が飾られ華やかなムードに包まれていた。吳氏は第 60 回開催時まで専用の体育館を建てるのが目標だそうだ。大阪からは吳氏と旧知の仲である錢谷氏のご夫妻で招待されていた。

参加者は年々増えており、今回は 5884 人、試合数 4800 以上、点数は例年通り 1 ゲーム 31 点の延長なし、16 点チェンジエンズ、審判は主審のみ、線審はセルフジャッジ。全試合の Youtube の生配信あり。シャトルは Yonex の CROSSWIND70 という素材がナイロンとカーボンの新しい人工球を使用。台北のチームは前もって予約すれば新しいシャトルを受け取って練習できたようだ。海外からの参加選手は試合開催の前日に体育館で試打できると聞いていたので台北到着後に短い時間だが練習した。水鳥シャトルより重く、飛び方が変則的なため、コントロールや戦い方など慣れるのに時間が必要だと感じた。

大会最終日には 2021 東京五輪と 2024 パリ五輪で金メダルを獲得した台湾男子ダブルスの「麟洋ペア」のエキジビションマッチが行われ、今なお現役として活躍中の王齊麟選手と、現役を引退後スポーツ省初代大臣に就いている李洋氏との迫力あるプレーを見ることができた。

Mr.Paisan

パーティでは、10 年以上前に国際親善大会に BWF の理事として何度か視察に来られたことのある Mr.Paisan にお会いした。現在は 2028 ロサンゼルス五輪のスポーツマネジャーとしてご活躍されているそうだ。我々の国際親善大会が 30 回以上続いていることをお伝えすると大変喜んでくれた。また、吳氏の計らいで我々の大会を告知する時間をいただいたので参加した二人でステージに上がり英語と中国語で 2026 年大会の PR をすることができた。



韓国から来られていた役員の皆さんにもお会いでき、昨年の国際親善大会で怪我をされた韓国選手への保険金のお支払いも無事完了した。国際親善大会に毎年参加してくれている台湾・香港・韓国など常連の方たちと旧交を温めつつマレーシアやオーストラリアからの選手が今年は参加したいと意欲的だったので期待したい。今回は様々な事情により当連盟からは 2 名だけの参加だったため多方面から何度も「なぜ今回は参加人数が少ないのか」と聞かれた。来年はたくさん参加して更に交流を深められたらと思う。

大会結果は以下の通り。

- ・合算 100 女子ダブルス 甲乙組 山内・池田組 準優勝
- ・年齢別 50 女子ダブルス 甲乙組 山内・池田組 準優勝

